日本生体医工学会 平成 30 年度第 6 回理事会議事録

日時 令和元年 5 月 17 日 (金) 14:00~17:30

会場 コンベンションホール AP 東京八重洲通り 7 階 R ルーム

<出席者>

理事長: 木村 裕一

副理事長: 杉町 勝(遠隔出席)、大城 理(兼関西支部長)

理 事: 守本 祐司、川田 徹 (遠隔出席)、黒田 知宏、佐藤 嘉伸 (遠隔出席)、

野村 泰伸、平田 雅之(遠隔出席)、生田 幸士(第58回大会長)、

中島 一樹、成瀬 恵治 (第59回大会長)、横澤 宏一

監事: 吉田 正樹、中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹 事: 原口 亮、永岡 隆

事務局長: 磯山 隆

オブザーバー: 清水 久恵(北海道支部長)、佐久間 一郎(関東支部長)、

伊良皆 啓治(九州支部長)、西川 拓也(若手研究者活動 WG)

<欠席者>

理 事: 石原 謙 (兼中国四国支部長)、松田 哲也、井村 誠孝、坂田 泰史、

松村 泰志

監事: 澤芳樹

幹 事: 京相 雅樹

<理事会議題>

【30-6-A】平成 30 年度第 6 回議題案

【30-6-B】第5回理事会議事録案190513

【30-6-C.1】入退会審查対象者

【30-6-C.2】入会希望者リスト

【30-6-C.3】退会希望者リスト

【30-6-D】資金の管理・運用について 190517

【30-6-E】理事会推薦理事 190506

【30-6-G】インセンティブ運用申請(北海道支部)190514

【30-6-H-1】若手研究者活動 WG サマースクール案 修正版 20190517

【30-6-H-2】日本生体医工学会若手研究者活動 WG 第 3 回講演会開催報告書

【30-6-H-3.1】YIA に関する理事会報告資料 本文

【30-6-H-3.2】YIA に関する理事会報告資料_参考資料印_受賞者リスト

- 【30-6-H-3.3】YIA に関する理事会報告資料_参考資料(月)_受賞者落選者への回答文
- 【30-6-I.1】プログラム案 0516 (00000002)
- 【30-6-I.2】会場全体図_190515
- 【30-6-I.3】特別講演まとめ
- 【30-6-I.4】大会登録者数
- 【30-6-J】59回大会ポスター
- 【30-6-K.1】第 60 回日本生体医工学会大会(予算書)
- 【30-6-K.2】基本料金お見積書
- 【30-6-L-1】平成 30 年度論文賞選定調書
- 【30-6-L-2.1】選奨申請 北陸支部大会「研究奨励賞」(2018-008(仮))
- 【30-6-L-2.2】報告書(2018-008(仮))
- 【30-6-L-2.3】選奨申請 北陸支部大会「研究敢闘賞」(2018-009(仮))
- 【30-6-L-2.4】報告書(2018-009(仮))
- 【30-6-L-3】選奨報告書(2018-004)
- 【30-6-M-1】東北支部支部長の推薦について
- 【30-6-M-2】北海道支部支部長の推薦について
- 【30-6-N】専門別研究会新設依頼書(次世代医療と ME の臨床応用への橋渡し研究会)
- 【30-6-O】平成 31 年度定時総会資料 190517 時点
- 【30-6-P.協 1】協賛:医療機器国際展開技術者育成講座
- 【30-6-P.協 2】協賛: HOSPEX Japan 2019
- 【30-6-P.協 3】協賛:ヒューマンインタフェースシンポジウム 2019
- 【30-6-P.協 4】協賛:第34回FSS2018
- 【30-6-P.協 5】協賛:MHS2019
- 【30-6-P.協 6】協賛:第21回日本感性工学会大会
- 【30-6-P.協 7】協賛:16th ICFD
- 【30-6-P.協 8】協賛:ICBME2019
- 【30-6-P.協 9】協賛: USE2019 趣意書
- 【30-6-P.協 10】協賛:日本人間工学会 60 回大会
- 【30-6-P.協 11】協賛:第 36 回センシングフォーラム 計測部門大会
- 【30-6-P.協 12】協賛:JCOM 若手シンポジウム
- 【30-6-P.後 1】後援:第28回 JSCAS 大会
- 【30-6-P.後 2】後援:第48回日本医療福祉設備学会
- 【30-6-P】他団体との後援・協賛状況

1. 理事会成立の件 総務【議案 A】

定款34条2項に則り、定足数10名を超える理事13名の出席、監事2名の出席(内4名はテレビ会議システムによる参加であり、参加役員は映像・音声について確認した)を確認したことから、本理事会は成立した。

2. 平成30年度第5回議事録承認の件 総務【議案B】

資料 30-6-B に基づき、平成 30 年度第 5 回議事録の確認が行われ、全会一致で原案通り 承認された。

- 3. 東北支部支部長の推薦について、北海道支部支部長の推薦について 支部【議案 M】 資料 30-6-M-1 および資料 30-6-M-2 に基づき、東北支部支部長に芳賀洋一氏(東北大学)、 北海道支部支部長に清水久恵氏(北海道科学大学)がそれぞれ全会一致で承認された。
- 4. 平成 30 年度論文賞選定調書、各賞選奨申請・報告書について(北陸支部選奨)、各賞選 奨報告書について(2018-004) 選奨【議案 L】

資料30-6-L-1に基づき、論文賞・阪本賞が原案どおり承認された。

資料 30-6-L-2-1 および資料 30-6-L-2-3 に基づき、北陸支部からの選奨申請について、原案どおり承認されたが、M系とE系の審査員が最低1名ずついることが確認できるよう申請書類を修正することとした。

資料 30-6-L-2-2、資料 30-6-L-2-4 および資料 30-6-L-3 に基づき、北陸支部および関東 支部から選奨結果報告が確認された。

佐久間関東支部長より研究奨励賞・阿部賞の選考について、第58回大会(沖縄)ではポスターセッションに座長を設定していないので、理事などに推薦を依頼する旨報告があった。

5. 臨床研究法ガイドライン制定の進捗状況について ※資料なし

臨床研究法ガイドライン制定の進捗状況について黒田理事より報告があった。当該の研究が法に定めるところの臨床研究に該当するか否かの、いわゆる該当性判断のガイドラインについて、厚労省と内容に関する調整を行い、ほぼ収束したことから、意見公募を沖縄大会までに開始する。該当性の判断では、事例の収集を伴う必要があることから、今後は学会内外に広く事例の提供を呼びかけることが必要である旨の説明があり、これに対して、事例収集に実効性を持たせるためには、学会としての該当性に係るコメントも付すべきであるという意見があり、これらの方針が承認された。医工学研究が萎縮しないよう学会として引き続き活動していく。沖縄大会で臨床研究法に関するセッションが開催されることも合わせて報告された。

6. 資金の管理・運用について 財務【議案 D】

資料 30-6-D に基づき、2018 年 8 月の理事会より検討に着手している、学会の遊休資金約 1.8 億円の運用について、中島理事より財務委員会での検討結果の説明が行われた。

- ペイオフの制約を享受するために、現状、いくつかの口座に預金が分散されていることから、利子が年額数千円と極めて少額である。
- 一口座に集約して、1億円以上の口座とし、定期預金に集約するように変更すると、毎年20万円程度の利子を得られる。
- 基金を運用に回すことは、総務省の承認は不要であることは、学会の会計を依頼している公認会計士に確認済み。

以上より、預金を集約し、定期預金で運用することが提案された。考えられるリスクとしてはペイオフ発生、定期預金の口座クローズドの期限である 10 年は預金を引き出せないので突発的に資金が必要になったときに対応ができなくなる点である。ペイオフについては運用先にメガバンクを選定することで回避し、突発的に資金が必要になったときには定期預金を担保に借入をすることでリスクを低減できると考えられる。なお、試験事業において天災等により再試験となった場合の資金として残しておくべきという意見も出されたが、人員面で再試験の実施が困難という意見が担当の守本理事より出され、引き続き検討していくことになった。以上の議論から、預け入れ金額や預け入れ先の検討は、理事長及び財務担当理事に一任された。

7. 理事会推薦理事について 総務【議案 E】

資料 30-6-E に基づき、木村理事長より説明が行われた。(1)企業との連携を強化するために京都大学の椎名毅氏を理事会からの理事候補として推薦すること、(2)支部間のバランスを取るための理事の推薦について今回は見送ることが承認された。第 58 回大会(沖縄)での社員総会にて提案される。理事候補を持たない支部の数が、推薦可能な理事候補の人数を上回ったことから(2)としたものだが、引き続き支部長には理事会へのオブザーバーとしての出席を得ることで支部毎の希望を学会の運営に反映することとする。また理事長より、代議員・理事選挙に各支部でも積極的に関わって欲しい旨の要請があった。

8. インセンティブ運用の申請 支部【議案 G】

資料 30-6-G に基づき、清水北海道支部長より申請について説明が行われ、第 57 回大会の黒字額 315 万円に基づいて、150 万を次の全国大会の開催準備、支部主催の講演会、学生会員の研究勧奨に充てるためのインセンティブ運用が承認された。木村理事長より、本制度が形骸化しないよう、大物講師の招聘を伴う魅力的なイベントを行うなど積極的に活用いただきたいという意見が出された。

横澤理事より支部会計との切り分けについて質問がなされ、木村理事長および中島理事より、通常の支部経費は従来どおり支部会計から執行いただき、申請に基づくインセンティブ運用については、イベント毎に執行し、会計報告していただきたいという回答が行われた。

9. IF 取得に向けた取り組み状況 編集【議案 F】

紙配布資料に基づき、横澤理事より 1. 科学技術振興機構(JST)が実施する、インパクトファクターの取得に向けた科学雑誌専門のコンサルタント会社によるコンサルタントを伴うジャーナルプレゼンス強化事業への申請を行い、一次選考を経てインタビューを受けたことが報告された(尚、理事会後に、採択された旨の通知が JST よりあった)。加えて、 2. IEEE EMBC 2019 での ABE 宣伝のためのブース申請、3. Review 論文の掲載推進、4. 生体医工学会シンポジウムでの教育講演における Edanz 社による講演実施の検討状況について説明が行われた。

4. について議論を行った。費用についてはシンポジウム経費ではなく編集経費から支出すべきであること。学会ホームページから Edanz 社へのリンク掲載は今回は見送る方が適切と考えることの意見が出され、この方向性で今後進めることが了承された。

10. 第58回日本生体医工学会について 第59回大会 【議案Ⅰ】

資料 30-6-I-1、資料 30-6-I-2、資料 30-6-I-3 に基づき佐久間関東支部長より説明が行われた。特別講演 7 件、一般演題 381 件、OS・シンポジウム等 208 件であること、参加者見込みが 800 名強であること、合同開催の看護理工学会側の参加者が 150~200 名であり、合計 1000 名規模になることが報告された。

演題登録システムについて、システムの使い勝手や柔軟性に問題があること、業者対応 にストレスがあると感じており、大会終了後に総括する予定であることが報告された。

プログラム公開、シャトルバス情報などは一両日中に実行予定であることが報告された。 シャトルバスはモノレールおもろまち駅から運行される予定。最終日は空港行きの設定も ある。

各種委員会の開催について対応が遅れており、これから急ぎ対応する。各種委員会におけるお弁当の準備は、遠隔地での初開催ということに鑑みて委員会出席者が各自用意する方針とした。

11. 理事長承認手続きについて

理事候補となっている現理事長が、代議員の改選の対象だったことから、新理事会による理事長の承認が必要となる。そこで社員総会に引き続いて第1回の理事会を開催する。

12. 第 59 回日本生体医工学会について 第 59 回大会 【議案 J】 資料 30-6-J に基づき、成瀬大会長より説明が行われた。準備は順調に進んでいる。

13. 第60回日本生体医工学会について 第60回大会 【議案 K】

資料 30-6-K-1、30-6-K-2 に基づき、大城関西支部長より説明が行われた。会場確保のためには開催 2 年前に一定額の入金が必要であることが算出根拠とともに報告され、執行が承認された。

日本生体磁気学会と合同開催に向けての調整事項を大会長間で今後進めていく必要がある 点が確認され、椎名大会長に伝達することとした。

14. サマースクール 2019 年案、若手研究者活動 WG 第 3 回講演会について、YIA について 若手研究者 WG【議案 H】

資料 30-6-H-1 に基づき、西川若手研究者 WG メンバーよりサマースクールについて説明 が行われ、参加費の変更が承認された。

資料30-6-H-2に基づき、第3回講演会の報告が行われた。参加者が少ないことが指摘され、今後の参加者増の方策について、MLでの周知だけでなく直接口コミで早めに参加を呼びかけるなどの提案が木村理事長よりなされた。

資料 30-6-H-3 に基づき、YIA について進捗状況が報告された。M 系の応募者が少ない状況 について議論があり、看護師や臨床工学技士なども M 系で応募できることの周知が必要であることなどの意見が出された。

15. 選奨手続について

規程により定められた選奨以外は、毎年開催される選奨であっても都度申請が必要なことが確認された。

16. 研究会新設について 専門別研究会【議案 N】

資料 30-6-N に基づき、「次世代医療と ME の臨床応用への橋渡し研究会」の設置について審議を行った。原則研究会の新設は 12 月に申請するが、この時期で申請する緊急性と既存の他の研究会との違いが不明確であるという指摘があったことから、新設は保留となった。

17. 入退会状況の件 会員【議案 C】

資料 30-6-C.1、30-6-C.2、30-6-C.3 に基づき、入退会が承認された。

18. 総会資料についての確認 【議案 O】

資料 30-6-O の定時社員総会資料を確認した。

19. 協賛等の状況 その他【議案 P】

資料 30-6-P.協 1~12、資料 30-6-P.後 1~2 および資料 30-6-P を確認した。

20. 今後の理事会の予定

平成30年度の理事会はこれが最終回であり、次回は社員総会直後に10分程度で開催すること、次々回は7~8月に開催することが確認された。

21. ME 技術委員会編集の書籍の著作権について

守本理事より、ME技術委員会で編集し版を重ねている書籍「MEの基礎知識と安全管理」について、これまで著作権者は学会としてきたが、改訂にあたり著作権者を委員会に変更するかどうかについて出版社より問い合わせがあった件が報告された。編集委員会での運用と同じく、著作権者は引き続き学会とするが、許諾など実務については委員会に一任することとした。

22. 研究の活性化

野村理事より、文部科研、学振特別研究員等で生体医工学会分野の採択率が低い点が問題であるという指摘があった。理事会より、政府方面の情報を持ち寄り、対策を検討することとなった。

23. ME 関連学科創設委員会

生田理事より、ME 研究推進委員会と共同で ME 関連学科創設に向けた活動が報告され、 日本独自の先進的な生体医工学科のカリキュラム案等について第 58 回大会(沖縄)で発表・ 討論することが報告された。

以上